

# 都市生活者が地域に感じる魅力の抽出と類型化

若林直子\*1・陶 真裕\*2・添田昌志\*3 / 推薦会員：添田昌志\*3

\*1 (生活環境工房あくと) \*2 (日本大学大学院文学研究科) \*3 (LLP 人間環境デザイン研究所)

キーワード：評価グリッド法 (Evaluation Grid Method), インタビュー調査 (Interview Survey), 好きな場所 (Favorite Places), 地域環境評価ツール (Tool for the community environmental evaluation)

## 1. はじめに

本研究では、都市生活者に個別インタビュー調査を行い、都市生活者としての地域の魅力を明らかにする。住みやすく魅力ある都市の居住環境づくりを目指し、まちが備えるべき機能や要因についての具体的知見を得ることが目的である。

## 2. 調査概要

評価グリッド法を中心にすえた個別インタビューを行い、各回答者の「真のニーズ」を具体的な場所などに紐付けて構造的に把握することを試みた。各インタビューの中心は、回答者に居住地域の中で「いい、好きと思う場所」を具体的にあげてもらい、それはなぜか (何がいいのか、何を求めているのか等) を引き出すことである。回答者は、特徴の異なる東京都内の2地域 (港区港南、世田谷区三軒茶屋) に住む30~70歳代の男女34人、時期は2009年7~10月である。

## 3. 結果

回答者の発言内容は、上位概念 (例：のびのび) から下位概念 (例：空が広い) に至る階層構造図として回答者ごとに整理した。全34人の結果はさまざまだったが、上位概念に限れば個人差や地域差が小さく、概念の数自体も少なかった。そこで上位概念に着目して全員の結果をまとめたが (図1)、共通項が多い分、予想に反して作業が容易だった。上位概念は「都市生活

者が地域に感じる魅力」そのものといえる。その魅力には「地域・人を超えた共通項が多い」といえよう。

この結果をわかりやすく伝えるため、各魅力のイラスト化を試みた (図2)。たとえば【4】は「利便性」にあたるが、便利だと時空間の制約がなくなり「自由になる」「ゆったりできる」、結果「活動的になる」というイメージである。キーワードの「アクティブ・自由・あくせくしない」がそろってこそ魅力となる。

## 4. おわりに

図2の各イラストは、都市生活者の感覚に根ざした地域の価値指標ともとらえることができる。筆者らは、今後これらを、都市生活者にとっての地域の魅力、および魅力を高めるための改善点を発見する「地域環境評価ツール」に発展させたいと考えている。そのためには、各概念を表現するボキャブラリーをさらに豊富にする必要がある。というのは、同じ概念でも実際にはさまざまな場所が考えられるからである。たとえば今回【1】は遊歩道だが、「ふらっと・ゆるゆる・集う」が満たされてさえすれば、神社でもマンションのラウンジでもよかった。

今後は、さらに調査を行って本結果を検証するとともに、各々に相当する場所を見つけ写真撮影をして一般公開し、さらに多くの人の意見を収集するなどの活動を行っていきたい。

\*1 WAKABAYASHI Naoko \*2 SUE Mayu \*3 SOEDA Masashi

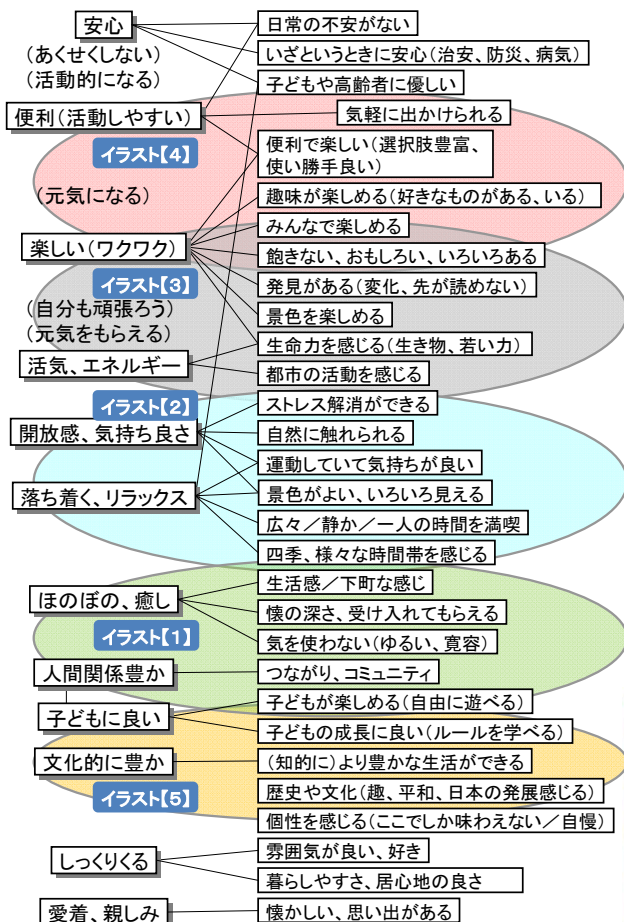


図1 インタビュー調査結果まとめ (全回答者34人分)



図2 調査結果のイラスト化

〔謝辞〕 本研究は、財団法人ハイライフ研究所との共同研究「都市圏居住の価値を探る (2009年度)」として行ったものです。ここに記して謝意を表します。